

製品名: Trk C (リン酸化 Tyr516) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05587**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 160kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | NTRK3 |
| 別名 | NTRK3; TRKC; NT-3 growth factor receptor; GP145-TrkC; Trk-C; Neurotrophic tyrosine kinase receptor type 3; TrkC tyrosine kinase |
| 遺伝子 ID | 4916.0 |
| SwissProt ID | Q16288 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒト Trk C の Tyr516 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 482-531 |

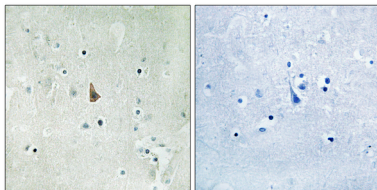
背景

この遺伝子は、神経栄養性チロシン受容体キナーゼ (NTRK) ファミリーのメンバーをコードしています。このキナーゼは膜結合型受容体であり、神経栄養因子が結合すると、自身および MAPK 経路のメンバーをリン酸化します。このキナーゼを介したシグナル伝達は細胞分化を促し、体位を感知する固有受容ニューロンの発達に関与している可能性があります。この遺伝子の変異は、髄芽腫、分泌性乳がん、その他のがんに関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2011年7月],代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです,触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸,機能: 神経栄養因子3 (NT-3) の受容体。これはチロシンタンパク質キナーゼ受容体です。trk 受容体の既知の基質は、SHC1、PI-3 キナーゼ、および PLCG1 です。異なるアイソフォームは、同一のシグナル伝達特性を持ちません。、PTM: リガンドを介した自己リン酸化。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。インスリン受容体サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。、類似性: 2つのLRR(ロイシンリッチ)リピートを含みます。、サブユニット: 単量体(低親和性)と二量体(高親和性)構造の間の動的平衡状態にあります。SH2B2に結合します。SQSTM1およびKIDINS220と相互作用します。、組織特異性: 広く発現していますが、主に神経組織に発現しています。アイソフォームBは胎児の脳よりも成人の脳で高いレベルで発現しています。

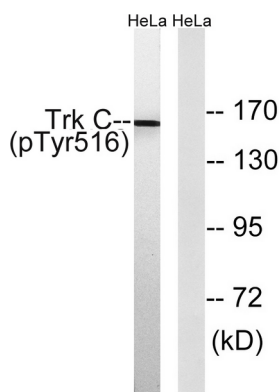
研究分野

神経栄養因子;

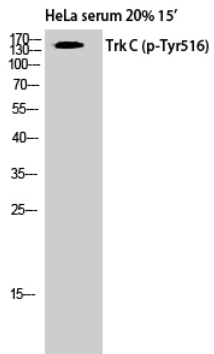
画像データ



Trk C (リン酸化 Tyr516) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 15% で処理した HeLa 細胞ライセートの Trk C (リン酸化 Tyr516) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



HELA 細胞のホスホ Trk C (Y516) ポリクローナル抗体を用いたウェスタンブロット解析